

令和3年度 第2回岐阜市立図書館協議会 議事概要

日 時：令和3年11月4日（木）午後10時00分～11時35分

場 所：みんなの森 ぎふメディアコスモス 第一会議室

出席者：アンドリュー・デュアー委員（会長）、高橋綾子委員（副会長）、林恵哲委員、
門屋伸子委員、堀井美紀委員、嶋田学委員、平賀研也委員、山田智直委員、
米原木ノ実委員、井戸一元委員、田中一慶委員、千葉佐代子委員
【欠席3名】久津輪雅委員、蒲勇介委員、中村正信委員
（事務局）吉成総合プロデューサー、川合館長、野々山係長、土谷係長、
川瀬係長、梅村係長、中村係長

傍聴者：なし

議事概要：

■報告や事務局提案に対する委員からの意見

第3次岐阜市子どもの読書活動推進計画（案）について

- ・策定部会の論点は、①第2次計画の成果と課題、②学校、家庭、地域等の観点と国の計画との整合性、③ICTやコロナといった今の時代への適合、の3点であった。
- ・発達段階に応じた読書習慣の形成について、幼児教育の部分を追加し、保育園・幼稚園・こども園にアンケートを行ったことで、それぞれが当事者意識を持つようになった。
- ・読書の多様性において、「共読」に力を入れたほか、読書活動に困難が伴う子どもへのアプローチや行動制限がある場合の支援を明記した。
- ・この計画にどのような主体が携わり、どのようなプロセスで議論されたのかを明記すべき。
- ・計画中でも環境は大きく変わるため、子どもたちのタブレット端末の使い方や、電子図書館の活用状況などのフォローアップ調査が必要。
- ・アンケートはあくまで子どもたちの主観であり、実態はかみ合っているか。概算では子どもたちは市立図書館の倍近い本を学校図書館で借りている。子どもたちの読書状況を市民に見える形にして、重要な資料やデータを計画に付けるとよい。
- ・今後、教育振興基本計画や生涯学習基本計画と子どもの読書推進計画が重なっていかないといけない。
- ・本の好きな子と読まない子の格差が大きい。電子書籍を学校側でどう活用できるか、電子書籍を通して市立図書館を知ってもらうことが大事。
- ・蔵書冊数と同様、年間新しい資料を買うための予算がどのくらい出されているかが重要。
- ・共読に向かない子もいる。共読のプラス面と同時にマイナス面にも留意すべき。
- ・今後はメディアコスモスを起点とした岐阜のオリジナリティ、シビックプライドの視点も重要。
- ・学校司書が1校1人配置されていることを明記すべき。県庁所在地の自治体では例がない。
- ・市立図書館の対面音訳サービスは予約があるので、対応できる人がいることを逐次知らせるような民間のボランティアを活用したシステムがあると、即時性のあるサービスができるのではないか。